

知事談話

- 1 本日、4月1日付けで総数、1,424人の人事異動を発表いたしました。
来る21年度は、これまで熟成させてきた仕込みを存分に生かして、県民の皆様とともに力を合わせ、県勢浮揚に向けて具体的に行動する「実行元年」と位置づけています。

このため、県の取り組みの主体となる組織や人員配置などの体制整備について、思い切った見直しや配置を行いました。

結果として、新年度については、庁議メンバーをはじめ幹部職員が大きく異動となりましたほか、全体の異動規模も昨年を上回る規模となりました。

- 2 組織については、「産業振興計画」を強力に推進することは勿論のこと、医療、福祉、交通運輸政策などの県政課題に一層スピーディー、かつ、きめ細かく対応していくため、柔軟で機動的な「攻め」の組織づくりを目指して、産業振興推進部の新設など部局の大幅な再編と抜本的な見直しを行っています。

このうち、特定の重要な県政課題には、部長級の理事職を配置し、専任で当たらせる体制とし、交通運輸政策担当と医療センター担当の2名の理事を配置いたしました。

産業振興計画の強力なエンジンとなる推進体制としては、私が本部長を務めます部局横断的な「産業振興推進本部」を設置し、その事務局となり、この計画を統括する「産業振興推進部」を創設し、さらに、地産外商の取り組みを力強く推進するため、部長級の「産業連携推進官」も新たに配置いたしました。

加えて、地域における産業振興計画のマネジメントを行うため、県内6ブロックに「地域本部」を統括する副部長級の「地域産業振興監」を新たに配置して、地域アクションプランの実施主体をワンストップで支援する体制の整備も行っていきます。

一方、健康福祉行政については、本県の実情に即したきめ細かい施策をスピード感をもって実施するため、健康福祉部を「健康政策部」と「地域福祉部」に再編いたしましたし、総務部では、これまで複数の部に分散していましたが政策の調整機能を一元的に所管し、政策の企画と各部局との調整を、迅速、かつ的確に行っていく体制とするなど抜本的な見直しも行っていきます。

- 3 職員の登用や配置については、こうした新しい組織や体制の下、「本気で『実行』する布陣」とすることを目指して、昨年未来、熟慮を重ねて参りました。「活力と経験」のバランスのとれた体制とすべく、活力ある若手の幹部ポストへの登用と、経験のある人材の配置に心がけ、併せて将来の県庁を担う人材の昇任、昇格に意を用いたところです。

また、人材の活用や育成、組織の活性化を図るため、職種にとらわれない配置や本庁と出先機関の職員の交流、女性職員の積極的な登用などにも取り組んでいます。

今回異動する職員はもとより、全ての職員が高知県の将来への希望と自信を持って、大胆に見直した新たな体制の下、県勢の浮揚に向けて、私と意思を一つにし、共に汗をかき、力強く取り組んでくれることを切に望みます。